

## 学校法人城西医療学園の基本方針

本学は「建学の精神」を具現化した多くの医療人を育て社会に送るとともに、大学開学以来そうした医療人を育てるための教育者・研究者を養成することも目標の一つとしている。これを実現するための基本方針は以下の通りである。

- 長年培ってきた医療教育の蓄積をもとに、「高齢化」が深化する社会の要請に応え得る専門的な人材を養成するために、教育環境の充実を図る。
- 教育者・研究者の養成を実現するための長期的学園変革のプランニングを明示する。
- 専門分野に偏しない、社会人としての人格養成のための教育・支援を行う。
- 社会の多様性・流動性に対応するため、国際的社会的視点にたった学園を構築する。
- 地域に開かれた大学となるために、地域住民のニーズを調査し、連携を図る。
- 施設・設備・図書の充実等、教員及び学生の研究環境向上のための支援を拡充する。
- 財務関係も含め、情報公開に努めて学園の透明性を高める。

建学の精神

報恩感謝

教育の基本理念

愛情・知性・行動

## 本学の三つのポリシー

### “アドミッションポリシー”（入学者受け入れ方針）

【学科・専攻独自項目】	
1	R 診療放射線科学に関する知識と技術に興味を持ち、社会に貢献する意思を持つもの。
	PT リハビリテーションにおける理学療法に関する知識と技術に興味を持ち、社会に貢献する意思を持つもの。
	OT リハビリテーションにおける作業療法に関する知識と技術に興味を持ち、社会に貢献する意思を持つもの。
	N 看護に関する知識と技術に興味を持ち、社会に貢献する意思を持つもの。
	ME 臨床工学に関する知識と技術に興味を持ち、社会に貢献する意思を持つもの。
	CL 臨床検査に関する知識と技術に興味を持ち、社会に貢献する意思を持つもの。

【学部共通項目】	
2	医療人を目指すうえで必要となるコミュニケーション能力を持つもの。
3	物事を理解し、説明できる力を持つもの。
4	医療分野に応用するための素養や基礎的学力を持つもの。

#### 表中の記号

R ; 診療放射線学科

PT ; リハビリテーション学科 理学療法学専攻

OT ; リハビリテーション学科 作業療法学専攻

N ; 看護学科

ME ; 臨床工学科

CL ; 臨床検査学科

## “カリキュラムポリシー”（教育課程の編成方針）

【学部共通項目】	
1	生命の尊厳を自覚し、相互に助け合い、思いやりの精神をもち、社会背景や価値観の異なる人々を受容できる能力を習得するために学科共通の科目を配置し、基礎教養科目から専門基礎科目への段階的な科目構成とする。
2	学生が主体的、自律的に成長し発展する能力を促すための科目構成を行う。医療の発展・高度化に対応するため順次性や階層性を持たせた基礎科目から専門科目への段階的な科目構成とする。

【学科・専攻独自項目】	
3	R 放射線科学技術及び理工学的基礎知識と技術をもって社会に対して貢献できる能力を習得するための科目構成とする。
	PT 理学療法学における人体の構造と機能、疾病と障害および保健医療福祉に関する知識と技術をもって社会に対し、実践を通して貢献できる能力を習得するための科目構成とする。
	OT 作業療法学における人体の構造と機能、疾病と障害および保健医療福祉に関する知識と技術をもって社会に対し、実践を通して貢献できる能力を習得するための科目構成とする。
	N 看護学の各領域における多様な医療現場において、個人・家族・地域社会に対し、系統的に専門領域を実践できる能力を習得するための科目構成とする。
	ME 臨床工学の各領域における多様な医療現場において、個人・家族・地域社会に対し、系統的に専門領域を実践できる能力を習得するための科目構成とする。
	CL 臨床検査医学・在宅医療等の多様な医療現場において、個人・家族・地域社会に対し、系統的に専門領域を実践する能力を習得するための科目構成とする。
4	R 画像診断、核医学、放射線治療等の放射線医療の専門分野において、系統的に専門知識及び技術を実践できる能力を習得するための科目構成とする。
	PT リハビリテーションの医学において理学療法評価学、理学療法治療学、地域理学療法学等の理学療法に関する専門知識及び技術を系統的に実践できる能力を習得するための科目構成とする。
	OT リハビリテーションの医学において作業療法評価学、作業療法治療学、地域作業療法学等の作業療法に関する専門知識及び技術を系統的に実践できる能力を習得するための科目構成とする。
	N 人の誕生から各成長発達段階における人々の健康課題と、地域社会で生活するさまざまな人々に対する健康支援を安全・安楽を守り、看護を提供できる能力および国際的な視点や研究姿勢をもって将来的に向上していく基盤を習得するための科目構成とする。
	ME 臨床で使用される生体計測機器・治療機器や生命維持管理装置等の原理・構造を理解し、保守管理に関する実践的知識・技術を習得するための科目構成とする。その際には、基本的な理解を目的とする基礎科目から専門科目への展開につなげる科目構成とする。
	CL 画像検査と検査測定機器の維持管理に対する知識と、医療に対応できる実践能力を習得するための科目構成とする。その際には、基本的な理解を目的とする基礎科目から専門科目への展開につなげる科目構成とする。

【学部共通項目】	
5	保健・医療・福祉の各分野の特性を理解するための科目構成とする。さらに、チーム医療の一員として責務を遂行できる能力を習得するための科目構成とする。
6	専門職として、現代社会において果たし得る役割や機能を認識し、貢献できる能力を習得するための科目構成とする。

## “ディプロマポリシー”（卒業認定・学位授与に関する方針）

【学部共通項目】	
1	生命の尊厳を自覚し、社会背景や価値観の異なる人々を受容する姿勢や態度を身につけている。
2	主体的、自律的に成長し発展する能力を身につけている。さらに、医療の発展・高度化に応じ、専門職として継続的な自己研鑽に励み、領域の発展に寄与できる能力を身につけている。

【学科・専攻独自項目】	
3	R 放射線科学技術及び理工学的基礎知識と技術をもって社会に対して貢献できる能力を身につけている。
	PT 理学療法学における人体の構造と機能、疾病と障害および保健医療福祉に関する知識と技術をもって社会に対し、実践を通して貢献できる能力を身につけている。
	OT 作業療法学における人体の構造と機能、疾病と障害および保健医療福祉に関する知識と技術をもって社会に対し、実践を通して貢献できる能力を身につけている。
	N 看護学の各領域における多様な医療現場において、個人・家族・地域社会に対し、系統的に専門領域を実践できる能力を身につけている。
	ME 臨床工学の各領域における多様な医療現場において、個人・家族・地域社会に対し、系統的に専門領域を実践できる能力を身につけている。
	CL 臨床検査医学・在宅医療等の多様な医療現場において、個人・家族・地域社会に対し、系統的に専門領域を実践できる能力を身につけている。
4	R 画像診断、核医学、放射線治療等の放射線医療の専門分野において十分な知識と技術を有し、系統的に専門知識及び技術を実践できる能力を身につけている。
	PT リハビリテーション医学において理学療法評価学、理学療法治療学、地域理学療法学等の理学療法に関する専門知識及び技術を系統的に実践できる能力を身につけている。
	OT リハビリテーションの医学において作業療法評価学、作業療法治療学、地域作業療法学等の作業療法に関する専門知識及び技術を系統的に実践できる能力を身につけている。
	N 人の誕生から各成長発達段階における人々の健康課題と、地域社会で生活するさまざまな人々に対する健康支援を安全・安楽を守り、看護を提供できる能力および国際的な視点や研究姿勢をもって将来的に向上していく基盤を身につけている。
	ME 臨床で使用される生体計測機器・治療機器や生命維持管理装置等の原理・構造を理解し、保守管理に関する実践的知識・技術を身につけている。
	CL 画像検査と検査測定機器の維持管理に関する能力を有し、医療に対応できる実践能力を身につけている。

【学部共通項目】	
5	保健・医療・福祉の各分野の特性を理解し、医療チームの一員としての役割を自覚し責務を遂行できる能力を身につけている。
6	専門職として、現代社会において果たし得る役割や機能を認識し、貢献できる範囲と程度を理解できる能力を身につけている。

## 令和4年度 事業計画（案）

令和2年に生じた新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、2年経過した現在も収束は疎か、その種を変異させ昨年の第5派襲来時とは比較にならないほど感染を爆発的に増大させている。これにより、令和4年度においても大学の運営や教育、そして学生生活に少なからず影響を与えることが予測される。日本の大学にとって COVID-19 の感染拡大を防ぎつつ大学教育、学生支援をどのように進めていくかが大学運営の大きな課題であり続けると推察する。コロナ禍の影響が長期化するなかで、持続可能な教育および指導体制を整備し、継続的な学生支援を通じて、本学が社会的役割を果たしていくための課題と、具体的な取り組みが求められる。

令和2年度から日本の大学は、学生支援の状況と大学教育への影響という2つの項目が取り沙汰され、各大学ともその対応に苦慮してきた。まずは、長期化するコロナ禍のなかで、学生支援の拡充は今後も継続的に求められると考える。令和4年度の新入生を含め、支援を必要とする学生が必要な支援を受けられる恒常的な学生支援の体制・運用が必要であり、様々な取り組みや支援策の充実が期待される。換言すれば、このコロナ禍に対する学生支援の充実は、本学が目指す学生の満足度の向上に寄与するものとする。

さらに、大学教育への影響については、教員の教育業務負担の増大に対応し、持続可能な教育および指導を維持していくための組織的な取り組みが必要になっている。日本の大学では、個々の授業の運営は担当教員に委ねられることが一般的である。しかし、遠隔授業、対面授業の両面においてコロナ禍に対応するために授業運営の負担は増加しており、教育研究を持続的に両立するための体制整備が大学運営に求められる段階にある。授業担当教員の授業運営上の負担軽減、カリキュラム・授業科目の見直しなどカリキュラムマネジメントを通じた教育改革など、大学教育のあり方そのものが再検討される時期に差し掛かっていると見える。加えて遠隔授業の学習成果をどのように把握し、高めていくかについても個々の教員の努力を超えた組織的な対応が必要となる。組織的な対応に基づいた大学教育の改善は、これまで幾度となく指摘されてきたが、コロナ禍は改めてそのことを露呈させたと言える。組織として持続的な教育と学生指導を可能とする支援を含め、大学教育を向上させていくことが求められる。

これらの観点を基軸に、本学のあるべき姿と果たすべき役割を改めて構想する。即ちこれからの時代どう生き残るかをコミットメントする中長期の計画立案である。その練り上げた計画を遂行することで存在意義を見だし、持続可能性を高めていかなければならない。新型コロナウイルス感染症と 2018 年問題という大きなうねりのなか、波乱の幕開けとなつた令和の時代であるが、本学においては逆にこれを好機と捉え、次の10年を見据え日本医療科学大学として集大成するため様々な戦略を実行していく。



## 1. 学生満足度向上に向けた取り組み

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、第5波で一旦収束の兆しを見せるも、令和4年早々にオミクロン株と言う新たなウイルスにより、瞬く間に想像を絶する感染拡大に見舞われた。多くの大学はこれに翻弄されながらも遠隔授業を中心に学修の機会を提供してきた。その一方で、教える側はオンライン対応のため負担が増加し、また教わる側は長時間の孤独な集中を強いられるなど苦痛も顕在化し始めている。

大学はこれまで、広く薄く学び、幅広い知識を身に付けた人を育てて、様々なシーンや組織で牽引役となる人材の輩出に貢献してきた。しかし、今求められているのは、新たな価値を創造できる人である。一方通行型の講義ではなく、双方向型の密度の濃い授業で、主体的に考える力を育成するやり方に方向転換すべき時代となってきたのではないだろうか。

良くも悪くもこれまで慣れ親しんだ文化や慣習を変えることは容易ではないが、徐々に教育の質を高めていく必要がある。学生が学びを通して何ができるようになるかを中心に据え、教育の質的転換を図ることが今大学に強く求められていると推察する。本学としても「医療人を育てる機関」としての体制確立のため、教育の質の確保に重点を置き取り組む必要がある。今後どんな時代においても揺ぎ無い教育実現と人材育成のために以下の項目に取り組む。

### (1) 国家試験合格のための対策

国家試験合格率は、本学の知名度向上や学生募集に大きな影響を与えることは言うまでもなく、入念な試験の傾向分析、国試対策授業、模擬試験の実施など国家資格取得に向けた取り組みを実施する。また、学生に個別面談を行い模擬試験の成績について、学修、生活面についてのアドバイスを行う。学生1人1人に対して補講などのサポートも手厚く行い、学力の底上げを図る。施設面においては学生に対し国試対策専用の部屋を配備し学修環境を整えるなど合格者増に向けた対策を講じている。各学科・専攻教員により国家試験対策室で学科を超え保健医療学部としての取組みに傾注する。

### (2) 就職支援の充実

長引くコロナ禍の影響で、就職先にも少なからず影響が出ていることは想像に難しくない。昨年度に引き続き、例年池袋サンシャインシティにて開催していた求人説明会は、中止を余儀なくされた。そのような状況下においても本学教職員のきめ細やかな学生サポートにより昨年度の就職率は100%を維持している。

今年度についてはオンラインを活用したキャリアカウンセラー、スタッフとの就職面談などを強化。履歴書の添削や面接練習を行い、学生の安全に最大限の配慮をしつつ、就職活動の支援を行い就職先の確保に注力をしていく。

### (3) 学生支援の継続

毎年、本学の学生主体の学事として、大樹祭（学園祭）、スポーツデー、坂戸よさこい等の大きなイベント、各種ボランティア等の比較的小規模なイベントや地域連携に関するものから学生の将来に役立つものまで様々なイベントを定着させてきたが、令和3年度も残念ながら中止を余儀なくされた。少しでもそれらの代わりになるようにと感染の落ち着いていた時期にはバスケットボール大会やeスポーツの大会を開催し多くの学生が参加し、好評を得た。

その他一人暮らし支援、女子学生支援、男子学生支援として、必要な物資を学生に対して配布を行った。また、4年生に向けてはアスリートや著名人からの応援メッセージ映像を制作した。引き続き状況を見ながら学生への最大限の支援の継続を行っていく。

### (4) 施設・設備の拡充及び補修

学校法人は、学部学科の新設などの投資を繰り返し経営の安定を図ることが一般的とされ、本学も学生の福利厚生面の充実のため、開学以来、時代のニーズに合ったキャンパス環境作りを実行してきた。今年度は新たに臨床検査学科を開設したが、今後さらなる教育環境充実のため教育研究備品等についても計画的に整備していきたい。

#### ○教育研究備品の購入

学科・専攻	品名	予算
診療放射線学科	◇ BLS トレーニングファントム	746,000 円
	◆ γ線用シンチレーションサーベイメータ	690,000 円
理学療法学専攻	◇ カイネタイザー（干渉波治療器）	1,950,000 円
	◆ 超音波画像診断装置	1,050,000 円
作業療法学専攻	◇ 体幹装具一式	460,000 円
	◆ マイクロクライメイトビックセルアイズ	238,700 円
看護学科	◇ 万能型看護実習モデル 八重	550,000 円
	◆ バイタルサインベイビー	440,000 円
臨床工学科	◇ エアコンプレッサ PF 型	1,914,000 円
	◆ 内視鏡シュミレータ	3,740,000 円
臨床検査学科	◇ NanoDrop Lite（核酸濃度測定）	980,000 円
	◆ 倒立顕微鏡	400,000 円

## 診療放射線学科

### BLS トレーニングファントム

#### 製品の特徴

CPR・除細動器の取り扱い除細動パッドの位置の練習に特化する事で効果的なトレーニングが可能。  
パッド貼り付け位置の正誤判定が可能。



### γ線用シンチレーションサーベイメータ

#### 製品の特徴

γ線感度の高い NaI(Tl)シンチレーション検出器を採用しており、バックグラウンドレベルからの空間線量率の変化を測定するのに適しています。





## 理学療法学専攻

### カインタイザー（干渉波治療器）



#### 製品の特徴

低周波治療モード(スーパータイダルモード)に加え、干渉低周波治療、微弱電流治療、高電圧治療、バースト(NMES)など多彩な治療モードに対応。  
症状や治療部位に応じた各種低周波治療を1台で実現します。

### 超音波画像診断装置



#### 製品の特徴

高画質、かつ高感度カラードップラー機能を標準装備。  
画像診断装置の生命線である画質は高いクオリティを実現。  
Bモード画像上に指定した領域での流速変化を確認できます。

# 作業療法学専攻

## 体幹装具一式

### 軟性コルセット（胸椎用・腰椎用）



医師の指示により、さまざまな胸腰椎疾患に用いられます。脊柱の動きを制限するとともに、腹圧を高めることにより、胸腰椎の支持性を高め負担を軽減します。

### 硬性コルセット（胸椎用・腰椎用）



プラスチック製の装具です。医師の指示により、十分な安静固定が必要な胸腰椎疾患に用いられます。

### 頸椎装具



頸椎（首）の動きをコントロールし、安静を保つ目的で使用します。

### 製品の特徴

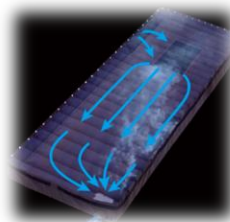
首から腰までの各部位に装着する装具です。

## マイクロクライメイトビックセルアイズ

### 製品の特徴

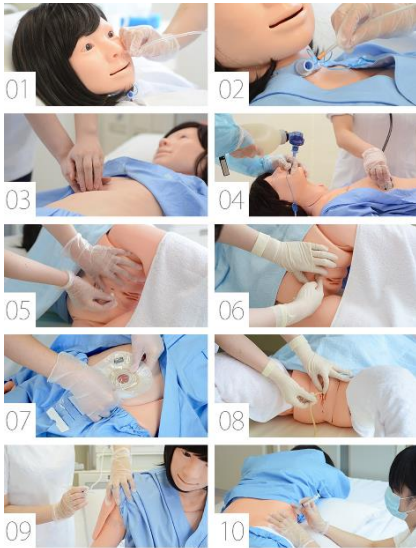
皮膚局所の温度と湿度の状態をより快適に保つことができる次世代のエアマットレスです。

常に効果的な空気の流れを作り出し、24時間、皮膚局所の温度と湿度の状態をより快適に保つことができます。



## 看護学科

### 万能型看護実習モデル 八重



#### 製品の特徴

さくらⅡの実習項目を踏襲し、さらに「挿管介助」などを追加 卒前教育から病院での実践レベルまで活用できる新しい看護実習モデルです  
経鼻胃カテーテル挿入、気管切開患者のケア、胸腹部のアセスメント、気道確保・気管挿管の準備と介助、導尿、排便援助・摘便、ストーマケア、膀胱内留置カテーテル、皮下注射・筋肉内注射など 40 種類以上の手技を学べます。

### バイタルサインベイビー



#### 製品の特徴

新生児のバイタルサイン測定と全身観察が行えるモデルです。  
泣き声機能により、心音・呼吸音の確認を臨床現場に近い状態で測定・観察する応用演習が行えます。

## 臨床工学科

### エアコンプレッサ PF 型



#### 製品の特徴

酸素濃縮器などの呼吸器治療装置では、エアコンプレッサと窒素吸着技術を利用して大気中の酸素(濃度 21%)をフィルター処理し、酸素濃度 95%以上の空気を作り出します。

### 内視鏡シミュレータ

#### 製品の特徴

バーチャル上にて物体の移動、器具などの接触、さらに臓器の損傷などの感触を得ることができ、内視鏡手術に必要な基本スキル、縫合結紮や手術手順のトレーニングなど、豊富な訓練カリキュラムを装備した内視鏡手術の教育・訓練機器です。



## 臨床検査学科

### NanoDrop Lite (核酸濃度測定)



#### 製品の特徴

Thermo Scientific™ NanoDrop™ Lite は微量サンプルをキュベットを用いずに簡単に測定できます。サンプルの表面張力を利用して上下のファイバー間に形成した液柱を光が通り測定を行います。

#### 製品の特徴

倒立顕微鏡は、実験室での細胞分析に欠かすことのできない重要な機器です。高度なイメージング技術により、ライフサイエンスリサーチにおいて蛍光顕微鏡や明視野顕微鏡を用いた細胞観察を可能にします。

### 倒立顕微鏡





## 2. 学生募集の変化

コロナ禍の影響は、学生募集も直撃している。進研アドによるアンケートでは一昨年より続き「学生募集に大きな影響がある」と回答した大学は多く。中長期的な影響について「学生の確保」を挙げた大学も同様であった。これに呼応するように募集活動に大きな変化が見られた。具体的にはWEBや動画を使用した面談やPR方法は急速に普及し、且つ実施形態が多様であった。また、これらの募集活動を早期に分析し、これから始まる次年度以降の募集計画へどのように活かすかも大きな課題となっている。

朝日新聞によると、首都圏の私立大は、オープンキャンパスのオンライン化や遠隔地在住の高校生の訪問見送りが志願者獲得に大きく影響することを危惧している。また学生募集活動のオンライン化や入試改革で学生募集の予測が困難なことに加え、オープンキャンパスの中止などにより学生確保に与える影響を懸念しているとしている。

コロナ禍において医療系の大学固有の懸念は、コロナ禍が長期化すれば、医療機関が疲弊することは避けられず、今後医療系大学を志す受験生にマイナスに影響するのかが等 医療系大学としては、学生確保のうえで大きな問題になってくると言える。

今の状況でコロナが収束することを期待することは困難であり、逆に「with コロナ」の発想で様々な活動計画を中長期的に進めていく必要がある。経済の長期的な低迷が危惧される中、高校や中学生に至るまで、やがて大学を受験する時のことも視野に入れ、本学においても継続的な学生支援策等、中長期の計画を立案し、これを積極的に発信し、安心感と希望をもって本学を目指してもらえるところこそが本学の取り組むべき喫緊の課題と考える。

## 3. コロナ禍での入試の在り方と大学広報の重要性

進研アドの調査によると、多くの大学が授業ではなく課題を通じて予定していた学修進度の達成を図り、課題への取り組み状況で学力を把握する方向性であることが判った。そのような中で、高校についてはどうかという休業中の学力を把握しないという学校もある。これは評定平均をはじめとする調査書の中身に一定の影響があると考えられ、大学はこうした特殊事情を理解したうえで、次年度の学生募集や入試を設計する必要があると考える。

高校においては対面授業が少しずつ再開するも、受験生が閉塞感と意欲の低下は払拭できず、大学の情報を得られない焦燥感と受験に対するさまざまな不安。このような受験生の内面に向き合い、勇気づけるために大学からの働きかけが今ほど求められている時期はない。多くの大学は、在学生のために「今できること」として試行錯誤でオンライン授業に取り組んでいる。次のコロナ対応として、受験生に対しても「今できること、やるべきこと」を考えて動き出す必要がある。

加えて、高校の教員も進路指導に困難を抱え、焦燥感を募らせている。さらに、生徒の心身の健康や家庭の経済状況や環境の変化にも目を配り、丁寧にケアしていこうとする傾向にあるという。

こうした高校の状況を受けて本学が考えるべきことは何だろうか。まずは受験生の不安を軽減し、そのことを通して高校教員の負担を軽減することではないだろうか。

過日、文部科学省から大学に出された 2022 年度入試の総合型選抜と学校推薦型選抜に関する通知では、臨時休業、および各種検定試験や大会等の中止によって受験生に不利益が生じないよう配慮を求めている。一方で、今後のコロナを巡る情勢が見通せない中で難しい判断を迫られる大学側にも配慮し、一定の条件の下、募集要項への記載内容の変更や「2 年前告知」の内容の見直しを許容する考えも示した。

本学としては今後、コロナ情勢の動きについていくつかのパターンを想定し、代替案も用意したうえで、入試内容を早めに公表して受験生に安心を与える必要がある。今回の通知では入試の実施時期は示されなかった。今後、各地で授業再開の動きが予想されるため、高校とコミュニケーションをとって実情と要望を把握し、文部科学省からの通知後速やかに入試の実施時期について発信することが肝要だ。

今年度の受験生は、きちんと授業を受けられていないために「無事に合格できても大学の授業についていけるだろうか」という不安も抱えているはずだ。本学としてはその点にも配慮し、入学前教育や初年次教育を含む万全の教育体制で迎え、支援していくというメッセージを送ることに傾注したい。

近年、高校生が志望校を決定するまでの進路選択行動は年々早まっており、このコロナ禍においてもこの傾向は続くと考えられる。受験大学を最終決定する時期は変わらず高校 3 年時の夏以降だが、その前の検討行動プロセスが年々早まっており、高校生に対し早期化を前提としたコミュニケーションが必要になる。

リクルートによると、影響メディアに関しては、分野決定、第一志望大学や併願する大学を決定するにあたり「先生のアドバイス」と比較検討しやすい「進学情報誌」が上位を占める。学内進路説明会開催や業者による進路講演等を活用し、高校側からもこの時期は、まず自身で情報収集する進路指導が実施されており、高校 2 年生に向けた早期広報と志望校リスト入りは重要である。全体的に大学進学者の進路選択行動においては、先生のアドバイスの影響が強いのが特徴で、高校教員への最新の大学情報、特に入試に関する継続的な情報提供は必須アイテムである。

加えて進学校より普通校、一般・共通テスト受験層より総合型・推薦入試受験層のほうが、高校教員の影響が強い傾向にある。ただ、進路指導担当教員からは「大学の分厚い資料を読み込む時間がない。大学の特色と入試について簡潔に纏まったものを作成してほしい」という声も上がっている。教育改革が本格稼働する中、混乱する高校生と

高校教員に向け「分かりやすく、特色が明確化された」情報提供が大学の責務と言える。これらを前提に、本学の“強み”である「国家資格取得と100%就職」を明確かつ適切な手段で発信し、本学ならではの「良さ・メリット」の周知と「共感・関心」を醸成して貰うため、関連のマス媒体の積極利用の検討等様々な可能性を検証する。具体的には以下の通り。

- (1) オープンキャンパスの開催時期・内容の再検証と、本学への興味と入学意欲高揚を促すマス媒体（サイト等）利用等の新しい企画の立案と教職協働による浸透と実践。
- (2) 大学案内、ホームページおよびSNSにおいて受験生が求める情報をタイムリーに発信し、本学が誇るべき教育施策等を情報提供すべくリニューアルの実施を行う。
- (3) 本学の生命線である国家試験対策、就職支援について更なる情報発信を行う。
- (4) コロナ禍において、可能な限り的高校訪問等募集活動の継続。

#### 4. 教育改革予算（学長特別研究費）

大学改革実行プラン（H24 文部科学省）に基づき、本学は通常の予算申請とは別に、教員の研究業績の一助として学長が特別に認める研究費（学長特別研究費）として、教員もしくは学部が本学の教育改革を遂行するための予算として位置付けている。令和3年度は新たに5件が採択され、4件の研究が継続中である。令和4年度の募集については、研究・倫理委員会が中心となり6件の応募があり、委員会審議中である。

#### 5. 研究部門の充実

日本学術振興会が取り纏める「科学研究費（科研費）」は、コロナ禍に伴う継続研究課題の延長などが影響し新規応募件数が前年度より8,950件減少している。本学においては令和3年度は2件が採択され、研究分担者は3件が新規採択された。令和4年度の科学研究費補助金の募集に対する応募は昨年同様3件（准教授1件、講師2件）であり、次年度も引き続き申請を推進していく。

また、研究紀要についてはこれまでの学生指導と教育という本学の二本柱の傍ら教員の研究業績も推進する。研究に対する質・量の充実を図るという新たな柱の構築を検討も視野に入れながら、研究・倫理委員会が所管する学長特別研究費と同様に、研究紀要は図書委員会が中心となり第15号発行に向け準備を開始する。

#### 6. 国際化への対応

令和3年度の国際交流活動も、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、アウトバウンドは全て中止となったが、オンラインによる海外の大学との交流や小学生を対象としたEnglish campをおこない盛況であった。令和4年度も引き続きコロナ禍において状況が好転する兆しは見えないが、国際交流研究センター主導により以下の通りの計画を立案する。

令和4年度国際交流研究センター計画

実施予定時期	内 容
時期未定（前期・後期）	少人数の英語講座等
時期未定（令和3年度は10月に実施）	米国オレゴン州の乳がんサバイバーによるドラゴンボートチーム『Pink Phoenix』とのオンライン交流
時期未定（令和3年度は11月に実施）	中台科技大学とのオンライン交流
時期未定（令和3年度は11月に実施）	ドンナイ技術大学とのオンライン交流
年4回程度	（共催）NPO法人J.J.N Social Contribution 小学生対象英語イベント“Empowering English Camp”
その他（後期） 感染拡大状況次第で計画を検討する	教職員海外研修
	オーストラリア UniSA 研修 （2019年度は3月中旬～下旬で企画）

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、令和2年度、3年度に引き続き令和4年度も海外渡航を伴う企画は原則すべて中止し、今までに開催してきた協定校とのオンライン交流などを基にさらに内容を充実させたものを計画している。感染拡大防止対策に留意し、状況次第で上表の計画の変更・中止等臨機応変に対応していく。



少人数の英語講座



Pink Phoenix とのオンライン交流







中台科技大学とのオンライン交流



Empowering English Camp





## 7. 地域・社会貢献

本学では例年、大学の社会貢献についての定めや教育基本法第7条に基づき、本学の地域・社会活動センターを軸に学生主体のボランティアと地域との交流、坂戸よさこいへの参加、大樹祭の一般公開等、着実に外部への発信も行うなどの活動を行っている。加えて、公開講座についても、在学生のみならず社会貢献の観点からも地域にアピールできる医療系のテーマを中心に考案し、活動を継続してきた。令和3年度は、残念ながらコロナ禍において全ての活動を休止せざるを得なくなったが、先崎秀明先生を特任教授として福島県いわき市と共に「寄附講座」を発足させた。他の取り組みについては状況が好転次第再開していきたい。

## 8. 財務

令和3年度は臨床検査学科の開設に伴い、建物、設備投資に大きな費用を要し一時的に赤字になる見通しではあったが、費用削減努力やコロナの影響もあり収支均衡が見通せる状況となった。他大学が18歳人口の減少状況にある中、開学以来すべて自己資金で大学に必要な財政基盤を賄うなど、入学者も定員を下回ることなく収入計画も順調である。ただし、学生数確保の点では本学のみならずすべての大学が苦戦を強いられており、本学においても地道な募集活動を継続していく必要がある。ほとんどのイベントが中止を余儀なくされ、オンラインや感染防止に対する費用が増加した。

学園としてはアフターコロナを見据え、教育の質の向上にも注視し投資を検証し継続実行していく。折しもコロナ禍で大学が十分に運営できない状態が続いている。しかしながら収益基盤を確固たるものとするために、学園全体で危機感を共有しながら引き続き学生募集に注力し、学生の満足度向上実現と教育環境充実のため「実のある設備投資」と「無駄な経費の削減の継続」の有効な財務管理を徹底していく。

## 9. 将来のあるべき学園像の実現に向けて

令和元年5月、私立学校法の一部を改正する法律が公布された。この改正は学校法人制度の管理運営制度の改善を図ることが目的で、改正事項は多岐にわたり、平成16年の理事会設置の法制化等を内容とする私学法改正以来の大きな法律改正と言えよう。

文部科学省の見解は、戦後、学校法人は学校教育という高い公共性を有する公教育を担う機関として、学校法人にふさわしいガバナンスを強化し、社会からの信頼を受け得て歩むとしている。

加えて公教育を担う法人として安定した経営が求められ、大学は高度人材育成の機関として、求められる教員・施設設備も多く、また、専門分化が進み、専攻により転学が容易ではない状況を踏まえると、中長期的視点に立った計画的な経営が求められる。計画の詳細な内容および期間は、各学校法人の裁量に相当程度委ねられるが、教学、人事、施設、財務等に関する事項について盛り込むとともに、原則として5年以上の期間とす

るとしている。

本学園は平成19年に開設以来、建学の精神である「報恩感謝」を軸に、将来にわたり「恩に報い、常に感謝する気持ちを持った有為な人材を育てる」拠点であり続けるため、時代が求める教育を行い、高い国家試験合格率を着実に維持継続するため様々な教育改革と健全経営に取り組むためのビジョンを策定し学園全教職員が一丸となって取り組んでいく。その骨子は以下の通り。

#### (1) 城西医療学園のグランドデザインの策定

学園のあるべき姿を象徴するアイテムであるグランドデザインを策定する。これは医療業界に深く貢献できる自立人材育成の教育体制の整備と拠点の整備、トップクラスの教育維持のための財政基盤の確保と収支均衡の継続、ステークホルダーとのコミュニケーションの充実などを推進していく。

#### (2) グランドデザインに基づく本学のビジョンと中期計画策定

グランドデザインを基軸に、学園および大学の基本的な方向を指し示すビジョンを掲げ、一つ一つの懸案事項を中長期的な視点に立ち、目標実現のための総合的施策として取りまとめた中期計画を学内外に発信していく。

#### (3) 法人と大学が取り組む中期計画（テーマの選定）

##### ①法人のテーマ（マスタープラン）

チーム医療従事者養成に特化した大学への進化させるための体制確立に着手する。今後の教職員の採用方針策定と人材育成は不可避である。加えて、既存施設の改修計画や防災・危機管理、事務組織の改善など多岐にわたる体制整備と併せて重要なアイテムが、経営と教育基盤の確立のために、しっかりとした資金計画による経営基盤の安定化を目指す。

##### ②大学のテーマ（マスタープラン）

グランドデザインの中核に位置付けられるのがこのテーマである。学生募集と学生支援、教学マネジメント、社会連携や社会貢献そして国際交流などより具体的に数値化し、これらのテーマを実現すべく教職協働の作業として全学的かつ組織的に取り組んでいく。

### グランドデザインと中期計画の相関関係（イメージ）

